

10. 造船・プラント

トピック：

＜造船＞足元船価はリーマン後最低水準

＜プラント＞新規案件の延期・中止増の可能性

造船需要：

受注量は駆け込み需要があったものの減少。16年は反動減もあり受注量が半減する可能性

造船6社業績：

円安効果一巡や海洋分野の損失等で営業赤字の先が出てくる可能性

プラント需要：

原油価格低迷、新興国経済減速で受注高が減少する可能性

プラント3社業績：

大型案件の進捗や調達コスト減少等で増収増益見通し

【造船】中国経済の減速等により荷動き量が頭打ちとなったことで海運市況が低迷し、足元の船価はリーマン・ショック後最低水準まで下落しています。

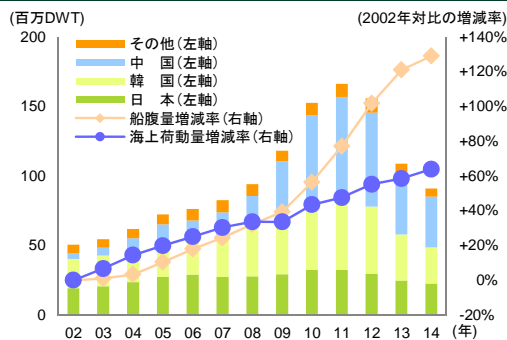
【プラント】 LNGは原油価格低迷で競争力が低下する中、新興国経済の減速等により需要が鈍化し、新規案件の延期・中止が更に増加する可能性があります。

【造船】造船各社は2013年～14年前半に欧州船主等から大量に受注した後、各工場の操業を抑えたこと等により、概ね2018年までの工事量を確保しています。ただし、2015年1～9月の受注量は環境規制適用前の駆け込み需要があったものの、元々船腹過剰であったところに中国経済の減速等に伴い荷動き量が頭打ちとなったことから、前年同期比▲28.3%減と低迷し、船価もリーマン・ショック後最低水準まで下落しています。2016年の受注量をみれば、上述した駆け込み需要の反動減も相俟って、2015年比半減する可能性が指摘されています。造船6社の2015年度業績は、円安効果一巡や不採算船の竣工増加に加え、海洋分野における損失引当金や追加費用の計上等により、前年度比増収ながらも大幅な減益となり、営業赤字となる先も出てくる可能性があります。

【プラント】世界的なエネルギー需要拡大に伴い、各地でLNGプラント等の建設プロジェクトが立ち上げられ、プラント各社は高い技術力を背景に受注を重ねてきました。もっとも、原油価格が下落しLNGのコスト競争力が低下しているほか、新興国経済の減速等を受けてエネルギー需要が鈍化していることから、進捗中の案件が延期・中止となり、各社の受注高が前年度比減少する可能性があります。

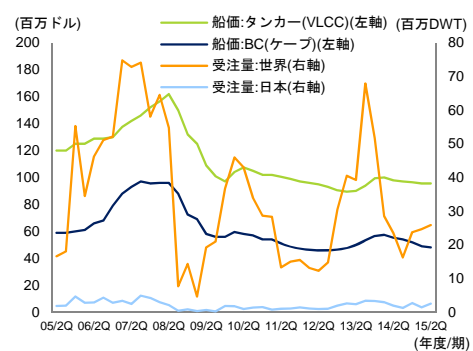
プラント専門3社の2015年度業績は、大型案件が進捗する上、原油価格の下落等により資機材コストが減少したこと等を背景に前年度比増収増益となる見通しです。

世界の新造船竣工量と船舶需給の推移



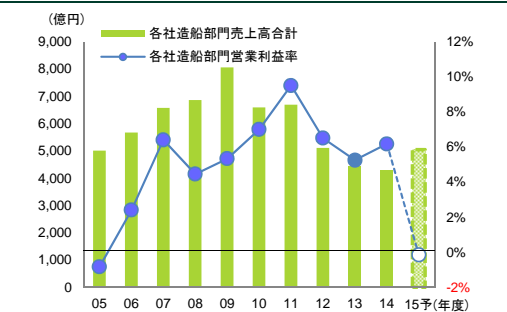
(出所) 日本造船工業会、Clarkson Research Servicesより発行作成

新造船契約船価、受注量(四半期)推移



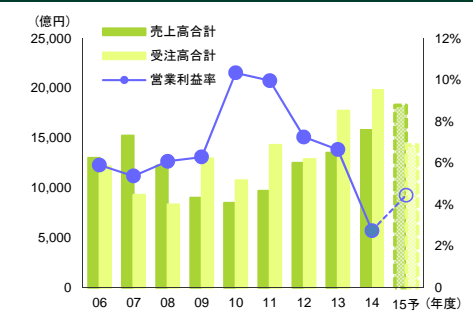
(出所) Clarkson Research Servicesより発行作成

国内上場造船関連6社(注)の合算連結業績推移



(出所) 各社決算短信、補足資料より発行作成
(注) 総合重機は三井造船、川崎重工業、住友重機械工業
造船専門はサノヤホールディングス、内海造船、名村造船所

プラント専門3社(注)の合算連結業績推移



(出所) 各社決算短信、補足資料より発行作成
(注) 日揮、千代田化工建設、東洋エンジニアリング

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で発行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を発行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。